



## 見えてくる



10日の土曜日にPTA主催の地域清掃を実施しました。今回は2年生が対象でしたが、それ以外の学年の人や部活動の生徒、保護者の方と先生方を含め多くの方が参加してくれました。本当にありがとうございました。このことを踏まえ今日の全校集会でお話した内容を改めて紹介します。

今回の清掃はボランティアです。自ら望んできてくれた人や部活動で参加しようと言われてきた人もいたかと思います。絶対にやらなくてはいけない清掃ではないので参加しただけでも「えらいね。」「ありがとう。」と褒められたり感謝されたりします。では、日常の放課後に行う班清掃はどうでしょう。決められた時に決められた場所を掃除しないといけない、やらなくてはいけない清掃です。だから掃除当番になると何か損をしたように感じ、いやいや清掃をしている人もいないのでしょうか。同じ清掃なのに義務でやるときとボランティアでやるときには気持ちが違うように思います。自ら望んでやったことにはいろいろな気づきがあります。清掃をしても「なぜこんなものが捨てられているのだろう。」「どんな気持ちで捨てたのだろう。」などと思った人もいないかと思います。そう、自ら行うことで今まで気づかなかったことや疑問に思うことが**見えてくる**のです。最近、就職試験や高校入試などでも「あなたはボランティア活動を行った経験がありますか。」と問われることがあります。これは、単純にボランティアをやっていたから感心だとかいい子だなという評価をしているのではないかと思います。先ほど言ったようにボランティア活動を通じて**今まで見えなかったことが見えるようになる経験**を多く積んでいることに期待をしているのだと思います。だから、そんな人は今まで何気なく道端に捨てていたゴミも捨てるようになるでしょう。

昔、テスト監督に行ったとき、ある一人の女子生徒の行動が気になりました。その生徒は解答用紙を消すたびに出てくる消しゴムのカスをなぜか机の端に固めておいているのです。もしかしたら消しカスを集めてねりけしにでもするのかなと思っていました。テストが終わって休み時間になった時、気になっていたのもどうするのかと彼女を見ていると、机の隅に固めた消しカスを丁寧に手のひらに乗せ、ゴミ箱に捨てていました。思わず「えらいなあ」と声をかけていました。掃除をしてきれいにするのももちろん価値あることですが、**汚さないようにする心を持つ**ことも大切だと気づかされたワンシーンでした。